

夢を持ち目標つくつて

城南中で「フェアプレイスクール」

新宮市

日本スポーツ協会は11月22日、新宮市立城南中学校（中田善夫校長、生徒181人）で「2019年度フェアプレイスクール」を開いた。新体操選手として活躍し、北京ロンドンオリンピックにも出場した田中琴乃さんが来校し、ミニゲームや体験談を通してフェアプレーの大切さなどを伝えた。

「フェアプレイスクール」は、世界で活躍した元アスリートが子どもたちにフェアプレーの精神を伝えようと実施している。小、中学校などを訪問して講義やスポーツ体験授業に取り組んでおり、今年度は全国10校で開催。同校では6日に事前学習会（ワークショップ）が行われた。

この日はフェアプレイ自身が新体操と出会い、始めたきっかけや経験、オリンピックを目指すてきな作品でした」と講評。

講義後には1年生63人が、何をすべきなのかを考えながら前に進んでください」と呼び掛けた。

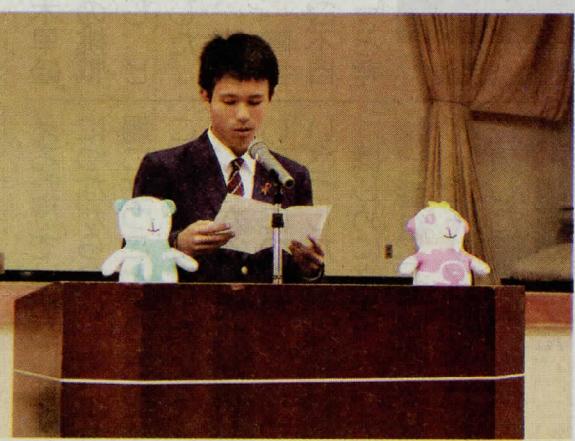
尾仲陽夏さん（1年）は「スポーツの世界だけでなく、私生活の中でもフェアプレーが大切だと分かりました。普段は新

体操を経験することがないので、体を動かしてみて難しかったけど、とても貴重な楽しい時間でした」と話していた。

（柴本康人）



オリンピックを目指した経緯などを語る田中琴乃さん
=11月22日、新宮市立城南中学校



（柴本康人）



（柴本康人）

した経緯など)を語り、「夢を持って毎日努力をし続けることで、気付いた時には大きな成長を遂げられていることもある。皆さんも夢を持って日々、目標をつくってほしい。自分には何ができるのか、何をしなければならないのか、何をすべきなのかを考えながら前に進んでください」と呼び掛けた。

尾仲陽夏さん（1年）は「スポーツの世界だけでなく、私生活の中でもフェアプレーが大切だと分かりました。普段は新

育体験授業が行われた。永野さんも参加し、生徒たちは田中さんに教わりながらボールを使って新体操選手がけがをしないための準備運動に取り組み、ミニゲームを交えて楽しく学んだ。

（柴本康人）